








## ぜんりん写真展フォトリスト

時代	写真	タイトル	解説	撮影場所
創設期		第3回卒園生 (大正10年)	幼児教育が珍しかった時代、園児は名門旧家の子供たちだった。卒園児は、第1回3名、第2回3名、以後着実に増えていった。	スタジオ撮影
		創設者 原口精一・友子夫妻	大正5年、原口牧師夫妻が香丸町の教会に赴任し、翌年5名の子供たちを預り幼稚園をスタート。大正7年5月、正式認可され「石岡善隣幼稚園」が誕生した。左は、第3代園長の奥山リウさん。	石岡バプテスト教会にて
		第7回卒園生 (大正14年)	大正末には、20人近い卒園児を送り出すようになり、幼稚園は活気づいていく。子供たちの着物、エプロン、洋服、髪型などから、大正の香りが漂ってくる。	香丸園舎
昭和初期		第10回卒園生 (昭和3年)	昭和に入ると、幼稚園が手狭になってきた。原口夫妻は金丸町に土地を求め、昭和4年に新築移転し、幼児教育を本格化した。	〃
		第12回卒園生 (昭和5年)	昭和4年には「石岡の大火」があり、市街地の3分の1が焼失した。幸い幼稚園は罹災を免れ、新しい園舎で卒園式が行われた。	金丸園舎
		昭和初期の子供たち	新しい園舎には、滑り台・ブランコ・砂場が備えられていた。子供たちのエプロンには、園のシンボルのまっかなポッケが付いている。	〃
		子供たちの髪型	男の子はイガグリ頭、女の子はオカップ頭、それが当時の典型的な髪型。男の子で二人坊ちゃん刈りがあるが、当時は珍しかった。履物は下駄が主流だった。	〃
戦時下		紀元二千六百年 (昭和15年)	戦時色が色濃くなった時期、国民すべてが動員された紀元2600年の祝賀行事は盛大だった。幼稚園児も鼓笛パレードを行い、日の丸を振って国の紀元を祝った。	石岡市街
		第25回卒園生 (昭和18年)	太平洋戦争が激化する時代、内地はまだ穏やかだった。子供たちは「少国民」と呼ばれ、兵隊さんにあこがれていた。	金丸園舎
		木登りと笑顔	木登りは子供たちの遊びの一つだった。園庭に集う子供たちは、笑顔がいっぱい。腕を組んで下を向くのは、昭和20年に永眠した原口園長。	〃
		戦時下のクリスマス (昭和19年)	敗戦色漂う昭和19年の暮れ、幼稚園に大勢の子供たちが集まった。大人から高校生・中学生・小学生、そして園児たち。卒園生の絆が感じられる楽しい催しだった。	〃

時代	写真	タイトル	解説	撮影場所
終戦後の10年		第28回卒園生 (昭和21年)	終戦の年に年長だった25名の子供たち。この子らの父親たちは、ちょうど戦地に赴いていた年齢だった。	〃
		第29回卒園生 (昭和22年)	前列の子の足元を見ると、下駄履き。先生方の服装は質素だが、子どもたちはフォーマルな正装で希望に満ちた表情があふれている。	〃
		第31回卒園生 (昭和24年)	金丸園舎のホールに並んだ卒園生。このころは坊ちゃん刈りが坊主頭とほぼ同数になる。中央上部の写真額は創設者の肖像が掲げられている。	〃
		夏の終わりに (昭和26年8月末)	夏休みの最後に行った水泳場の桃浦。鹿島鉄道に乗って30分で行ける手軽な場所だった。白い上着が目につくが、このころの夏は今よりも過ごしやすかった。	桃浦
		市制祝賀パレード	石岡町が高浜・三村・関川と合併して「石岡市」になった日。この日は市制を祝い、善隣幼稚園も鼓笛パレードで行列に加わった。	石岡市街

奥山園長の時代		第37回卒園生 (昭和30年)	団塊の世代が入園するようになり、幼稚園はますます活気を増してきた。それに伴い、先生の数も増えた。後列右端の若い先生は入ったばかりの藤株光子先生。	金丸園舎
		第39回卒園生 (昭和32年)	手狭になったため、新園舎を富田町の現在地と決め、着手したのが、昭和29年。その新園舎で撮ったのがこの写真。卒園児の数は50人に及ぶようになった。	現在地
		サンタと花嫁、月光仮面	クリスマスの仮装で、サンタに花嫁、さらには二丁拳銃の月光仮面までが現われた。当時、月光仮面は子供たちの大ヒーロー、幼稚園は大いに盛り上がった。	〃
		第41回卒園生 (昭和34年)	昭和27年生まれの子の世代、現在は57歳の働き盛り。医師や大学教授、会社社長など、それぞれが各界で活躍している。	〃
		第44回卒園生 (昭和37年)	園児数が最も多かったのが、この時期。卒園児94名、団塊の世代より10年も後の世代だが、幼児教育の大切さが広くゆきわたった時代といえる。このうち、2割弱が市外から来ていた。	〃
		運動会でお弁当	まっかなポッケのエプロンの園児は、小学校の運動会に招待されていた。お昼のお弁当の時間、先生を囲んでおにぎりをおいしそうに頬張る園児たち。心なごむ風景だ。	石小
		第47回卒園生 (昭和40年)	園庭で撮った卒園写真。現在52歳の年代で、紙芝居「コロとこっちゃん」の主人公がこの中にいる(3列右4人目)。玉造から鹿島鉄道で通っていた女の子で、この時はすでにコロと離れ離れになっていた。	現在地

時代	写真	タイトル	解説	撮影場所
		ジャングルジムにて	前列左から奥山園長、藤株先生、正木先生。子供たちの笑顔が輝いている。	〃
		風呂敷背負った学芸会	保護者が見守る中、子供たちの寸劇が演じられている。お面をかぶった子供たちは、正座で出番を待っている。	〃
		第50回卒園生 (昭和43年)	石岡善隣幼稚園が創立されて半世紀。幼稚園と共に歩んできた奥山園長も、60代後半にさしかかっていた。	〃
		冬の日差しの中で	いつの時代でも、子供たちの笑顔は無邪気でかわいいもの。冬の日差しの中で、笑顔がいっぱい輝いている。	〃

昭和50年 以降		昭和50年代の園庭	西友とコーキの二つの大型店で街がにぎわっていた頃。中心街の一角にあった善隣幼稚園の園庭は、子供たちの声であふれていた。	〃
		昭和50年代の幼稚園	友井篤理事長（後列右端）の時代。壁には園歌やキリスト像の絵が掲げられている。	〃
		第75回卒園生 (平成4年)	新園舎で、みどり組46名が集合。	〃